

1 学校教育目標

思いやりと豊かな心を持ち、自立して生活できる社会人を育成する。

2 目指す姿（学校像・園児児童生徒像・教師像）

- ・生徒が規範意識を高め、互いに認め合い、支えあいながら、豊かな人間性を育む学校
- ・生徒が自己の課題にチャレンジし、意欲をもって学校生活に取り組み、自信が持てる学校
- ・地域社会に開かれて地域から信頼され、生涯学習の場を提供できる学校

3 現状と課題（重点目標設定理由）

これまで、まじめでおとなしく、素直な生徒が多い一方で、不登校や他の人とのコミュニケーションを図ることが難しいなど、多様な課題を抱えて入学する生徒もいる状況であった。前年度の学科改編及び二部制導入に伴い生徒数は年々増加し、より活力のある生徒も入学しているが、多様化は一段と進んでいる。

4 目標

〔中期経営重点目標〕

基礎学力と豊かな心を育成することにより、社会への適応能力及び進路選択、進路決定能力を高める。

〔（中間）評価〕

基礎学力の状況として各種検定試験を目安とすると、1年生の合格率が例年より低くなっている。最初の検定試験で充実感を味わわせ、学習意欲につなげるような工夫が必要である。

短期経営重点目標（2年目）	評価結果（4段階）	主な具体的方策	実施状況	分析（○）・改善策（◎）・支援要望（☆）
<p>教員の指導力を高めるとともに、関係機関と連携した体験活動や指導講話等も取り入れ、生徒に進路目標と学習意欲を持たせて希望進路の実現を支援する。</p>	<p>卒業生の進路希望については、100%達成したが、せっかく決めた進学内定や就職内定を断り、自ら卒業を延期する決定をした生徒がいるなど、時間をかけて自分の将来に向き合わせる進路指導が不十分であった。</p> <p>その他、教科指導の充実を図る取組を進めているものの、多様化する生徒の学力や学習意欲に応えることができるよう、本校独自の指導法を確立することが必要である。</p> <p style="text-align: center;">評価 3</p>	<p>教科指導及び生徒理解等の研修の推進</p> <p>各種検定・資格試験への積極的な挑戦による学習意欲の向上</p> <p>自分創造、LHR等におけるキャリア教育の推進</p>	<p>生徒指導を兼ねた校内巡視を行うとともに、授業交流週間を機に日頃から互いの授業を見合う取組を進めた。教育相談研修会は専門家による校内研修を計画通り実施した。</p> <p>・計画通り、検定週間を設け、学習意欲を喚起したが、平成24年度以前のようにまとまった補習時間が確保できず、生徒のやる気につながりにくかった。</p> <p>将来必要となる社会性を身に付けるため、1・2年次生では広島大学大学院尾形准教授の指導のもと、大学院生によるSSTの授業をクラス別に3時間実施。2年次生は藤島就職コーディネーターから3時間のキャリア教育講演会を実施。3・4年次生は日本クレジット協会から講師を招いて消費者教育を実施。</p>	<p>○ 卒業生の進学希望8名、就職希望7名は全員内定した。大学進学については、資格取得の取組が効果を上げている。また、就職希望者には藤島コーディネーターのアドバイスを受けながら、ねばり強く指導した結果である。しかしながら、4年制大学の推薦入試や就職試験で内定をもらいながら辞退するケースが相次いだ。また、進路希望が定まらず、引き続きアルバイトを考えている生徒も9名いる。</p> <p>○ 教科指導力の向上については、校内巡視の延長として、昨年同様、互いの授業を見合う「授業交流」の取組を進め、日頃から他教科の授業やSHRを見学するなど、若手教員がベテラン教員から積極的に学ぼうとする姿が見られるようになった。</p> <p>○ 専門家による教育相談研修会や情報交換会の実施により、個別の生徒理解に役立てることができた。</p> <p>○ 学習意欲は、昼間部ができる以前にくらべ、検定試験に向けた補習授業の時間確保が困難となっており、全体の底上げができていない。</p> <p>◎ 来年度は全員で協議する場を設け、統一テーマを設定して授業交流を進めること、他校（国泰寺高定時制、西高など）との交流を進めながら、指導法を工夫していく必要がある。</p> <p>◎ 教職員の指導力を向上させるための研修の充実を図る必要がある。</p> <p>◎ 卒業年次までに進学や就職に向けた意識や目標が十分に持てるよう、1年次からの計画的な進路指導を行うことが必要である。</p>
<p>教育相談機能を充実し、マナーを守り、安心して学校生活に取り組める環境づくりを推進する。</p>	<p>教員による面談や超えかけなどにより生徒観察を行い、生徒支援、生徒指導に生かすとともに、SC、アシスタント、SSとの連携が図られている。</p> <p>学校生活の生徒自身の満足度を表す指標である「入学してよかった」と思う生徒の割合が昨年から9ポイント上がっている。</p> <p style="text-align: center;">評価 4</p>	<p>面談及び丁寧な生徒観察や挨拶・声掛けによる生徒支援の充実</p> <p>規律があり、発表や質問がしやすい授業の工夫</p> <p>スクールカウンセラー、アシスタント、スクールサポーター等との連携の充実</p> <p>安全で秩序ある学校生活環境の維持・改善</p>	<p>欠席生徒への連絡のほか、計画的な面談や必要に応じて授業中に呼び出して面談を行うなど、可能な限りの充実を図った。非常勤講師を含め、すべての教科で基本となる授業ルールの徹底を図った。しかしながら、発表や質問がしやすい授業の研究は進んでいない。</p> <p>担任との面談を通して、SCを利用する生徒や保護者も多く、利用が進んでいる。2名のアシスタントにはきめ細かく情報を伝え、担任や教科担当と連携を図りながら生徒支援に貢献している。</p> <p>広島大学大学院石田准教授の協力により、SSには年間25回来てもらい、生徒への声掛けを行ってもらった。</p> <p>授業ルールの徹底を図るとともに、空き時間に当番を決めて校内巡視を行った。また、いじめアンケートで、嫌な思いをしている生徒について早期に把握し、保護者の協力を得ながら指導を行った。</p>	<p>○ 面談及び丁寧な生徒観察や挨拶・声掛けによる生徒支援の充実については、教職員も手応えを感じており、生徒の学校生活への満足度も昨年より向上している。</p> <p>○ SCの利用促進が図られている。さらに、教育相談部とSCの連携を図るため、毎週1回定例会を持って情報交換を行っており、個別指導に生かしている。</p> <p>○ 生徒や保護者アンケートやPTA懇談会の意見から、大学進学意識の高い生徒やその保護者は本校の学習内容について、大学入学後の不安を持っていることがわかった。</p> <p>◎ 多様な学力や学習意欲をもつ生徒それぞれに対応できる授業のあり方を検討する必要がある。</p> <p>☆ 来年度のHR教室や特別教室の増設など、設備拡充を伴うものについても引き続き施設課に要望していく必要がある。</p>
<p>地域・企業や他の学校・教育機関等と連携した教育の推進を図る。</p>	<p>HPの充実が進まなかった。入学希望者の個別訪問は増加したが、学校説明会やオープンスクールの参加者は昨年の8割であった。</p> <p style="text-align: center;">評価 2</p>	<p>タカノ橋商店街との連携や商品開発、インターンシップ等の交流体験活動の充実</p> <p>HPの充実や関係機関との連携による大手町商業高等学校の魅力の情報発信</p>	<p>予定を変更しながらではあるが、予定の活動を実施することができた。</p> <p>新設した情報委員会が機能せず、HPによる情報提供が遅れがちであった。また、新たな情報発信の場の開拓が新しいイベントなど情報提供が遅れがちであった。</p>	<p>○ 鷹野橋商店街の協力でインターンシップを実施することができた。</p> <p>○ イベントであるものの、授業での取組であり、情報発信や保護者案内が選れた。</p> <p>◎ 入学希望者の個別訪問での聞き取りで、外部に対してはHPが有力であることがわかっていく。HPに掲載すべき情報の検討を企画会議に位置づけることで分掌からの情報提供を促し、内容の充実を図る必要がある。</p>

5 学校関係者評価に関する事項（主な意見等）

- ・いじめについて、周囲の生徒も知っていないながら学校が放置すると「学校は何もしてくれない」と思われてしまう。被害者本人とその保護者が加害生徒への指導を拒んでも、学校が説得し、加害者への指導を行ったことは評価できる。
- ・川崎の事件は、学校の対応で未然に防げたはず。日頃から教師と生徒の会話が大切。いざというときは教師のメンツを外してでも対応してほしい。
- ・携帯電話・スマートフォンの使用について学校で指導してほしい。特に保護者には書面でもって啓蒙を図るべきである。学校でやれるだけのことをやってほしい。
- ・均一化していないことが大手前の上である。「多様化」には限界がある。学力を伸ばすことについては新しい学習との出会いを大切にさせたい。
- ・学校のホームページを毎日更新する学校もあり、学校の意欲を感じる。小規模校ならではの工夫が必要。

6 その他の報告事項

- ・PTA懇談会や入学希望者の個別相談では、公立の定時制高校が統合され小規模校でなくなることを残念がる意見が多くある。（「我が子のような生徒はどこに行けばいいのでしょうか？」という質問がある）